

令和 5 年度 県立水戸飯富特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆朗らかで楽しい学校 ◆穏やかで安心できる学校 ◆和やかで信頼される学校					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、職員間の日ごろの実践の情報やアイデアの共有を図るための校内研修を行った。学校全体として、または部として現状や研修課題を明確化し、全職員間でその課題を共有しながら、校内研修の内容や方法を考えていく必要がある。 「いいとみキャリア・パスポート」を活用することができた。活用方法を見直したり、系統的な指導を進めたりする必要がある。 地震・火災、竜巻、原子力避難訓練と引き渡しのためのメール訓練の計4回の訓練とシェイクアウト訓練を実施することで、対応力をつけることができた。 支援が必要な児童生徒について、各関係機関と連携しながら校内支援会議を実施したり、兄弟への支援が必要な場合は他部合同でケース会議を実施したりして、情報及び支援の共有を図ることができた。		1 子どもの「探究心」を育む授業づくり	①育成を目指す資質能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成 ②展開において児童生徒が思考する活動の設定と学習の「まとめ」「振り返り」を大切にする授業 ③これまでの実践と ICT を組み合わせた効果的な授業 ④授業改善を進めるための校内体制の整備と研修会の実施		C	
		2 自立と社会参加に向けた教育活動の充実	①「キャリア・パスポート」の活用と系統的なキャリア教育の推進 ②社会自立を目指し地域や保護者と連携した教育課程の編成と改善 ③地域資源や地域の施設等を活用した職業体験学習、人や社会とつながる学習の実践と充実 ④一人一人の「働く」意欲を高める作業学習の実践		C	
		3 健康で安全・安心な学校づくり	①安心して学習や生活ができる教育環境の整備 ②ヒヤリハット事例の蓄積と共有、危機管理体制の充実のための各種マニュアルの見直しと改善 ③いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実 ④専門家や保護者と連携した食育・健康教育の推進		B	
		4 地域連携とセンター的機能の充実	①内原特別支援学校との連携、学校間、学校と地域のつながり、互いの学び合いを大切にした交流及び共同学習の推進 ②電話相談及び来校相談、巡回相談の充実 ③保護者及び地域の関係機関との連携の強化 ④本校教育活動の積極的な発信		B	
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	組織的な授業改善 危機管理体制の充実 学校施設の点検と改修	・校長直轄の授業改善チームによる研修と職員による相互授業参観 ・教務、部主事、校務分掌部長、学年主任等を中心にした組織的な対応 ・日常的に校内巡視、危険個所等の把握、改善	1-①②③④ 3-①②③④	B	B	※ 1
教職員の 育成及び 指導・監督	キャリアステージに応じた専門性向上 コンプライアンス遵守	・管理職による職員の取り組みへの直接・間接評価とフィードバック ・現職教育を中心に年間計画に基づいた研修の実施 ・当事者意識の醸成を目指した研修会の実施と工夫	4-② 3-②③④	B	B	※ 2
対外活動	校外施設での体験的活動充実 PTA活動の活性化 活動の積極的な発信	・体験先の開拓、キャリア教育全体計画の見直し改善 ・外部人材によるPTA研修会、研修会後の意見交換等の実施 ・ホームページでの発信と報道機関への情報提供	2-①②③④ 4-①③④	B	B	※ 3

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

- ※1 ○校長がリーダーシップをとり部主事を対象とした研修を行ったり、職員による相互授業参観を行ったりして、組織的な授業改善を図ることができた。
 - 児童生徒の感染症対策、急病、怪我等に対して教務、部主事、校務分掌部長、学年主任等を中心とした組織的な対応ができた。
 - 管理職が日常的に校内を巡視し、危険箇所等を把握し、改善を図れたところもあった。
 - 育成を目指す3つの柱に基づく目標設定と、3観点による評価について研修を進める必要がある。
 - ◇企画会を要とするチームにより校内研修、計画訪問等を活用しながら組織的な授業改善を図る。
- ※2 ○管理職による職員の取り組みに対する直接・間接評価とフィードバックを行い、専門性向上を図ることができた。
 - コンプライアンス推進計画を策定し、研修のみでなく、多面的にコンプライアンス遵守を図ることができた。
 - ◇職員一人一人の専門性の向上と均一化を目指す。
- ※3 ○コロナ禍で中止していた校外での活動や、外部人材の活用を積極的に行うことができた。
 - PTA役員と連携して新しい取り組みも実施することができた。
 - ◇校外での取り組みの教育課程上の位置づけ、目的、系統性等について検討する。